

76巻2号

2021年4月1日

YAA 天文会報

(4~6月号)

788号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



トリオ銀河 M65_M66_NGC3628

撮影：山形幹夫

観望ガイド

正木

異常に早い桜の開花に驚きつつ、コロナと花粉から身を守るため必要最低限の外出のみの引きこもり状態が続いています。皆さま変わりはないですか？

春の彼岸が終わり、春真っ盛りから初夏・入梅までの三ヶ月間の主だった天文現象を紹介します。

4月17日（土）の日没後、火星に月齢5の月が接近する様子が見えます。一番近づいて見えるのは22時半ごろで間隔は1度を切る近さです。月が火星に徐々に近づいていき、22時半を過ぎると逆に離れていく様子がわかります。場所はオリオン座の北、おうし座の角のあたりです。なお、東南アジアでは火星が月に隠される火星食になります。

5月14日（金）日没後の西空に、火星・月・水星・金星が縦に並びます。とくに金星は高度が低く、まだ明るい空に肉眼では見つけ難いですから、太陽が沈んだら直ぐに双眼鏡などで『西北西の低空の月→（右下）→水星→（下）→金星』とたどって探しましょう。16日にかけて月が火星に追いつくように動いていきますので、その三日間の動きを撮影しておくのも面白いです。水星は17日に東方最大離隔となり、金星はこれからだんだん見易くなっていきます。夕焼け空が徐々に暗くなっていくときの茜色から群青色に変わっていく様は何とも美しいものです。そんな空を背景に惑星が並ぶ様子は見ていて飽きることはありません。

5月26日（水）に皆既月食があります。部分食の開始は18時45分、皆既食の開始が20時11分、食の最大20時19分、皆既食の終了が20時26分、部分食の終了は21時52分です。ざっくりですが東日本太平洋側以外は、月が昇ってきたときにはすでに部分食が始まっています。時間帯が早いので深夜にならず、ゆっくり見ることができます。今回の皆既月食は月が本影の端の方を通過していくため、皆既の時間が短くそれほど暗くもならないと思われますので、さそり座をバックにどのような色に見えるのか楽しみでもあります。なお、この日の満月は年内で一番地球に近い、いわゆるスーパームーンでもあります。

流星群は、4月に極大となる“4月こと座”と“みずがめ座 η 群”が知られていますが、今年は月明かりの影響を受けてしまいどちらも条件は良くないです。

このところ、またコロナの陽性者数が増加傾向の日々です。元通りの生活には言いませんが、対策をした上で気軽に外出が早くできますように…

【例会】

決まり次第ホームページにてお知らせします。

今回は撮影以外の話題で

山形幹夫

この冬は仕事の都合もあり、撮影に出かけることができませんでした。今回は撮影ではない話題です。今年には人生で天文に興味を持ってから50年目となります。細く長く続いたものだと自分でも感心しています。長く続くきっかけとなった出会いについてお話いたします。同じような経験をされ、同じような道を歩んでこられた方がいると嬉しいです。

(1) 友人の望遠鏡で土星を見た

中学1年生の理科の授業には当時気象と天文の授業が行われました。友人がミザールのH-100型反射赤道儀を持っていて土星を見せてくれました。輪があり、その姿に大きな衝撃と感動を覚えました。

そこで私は当時14,800円のミザール製6cm屈折経緯台を購入します。典型的なアクロマートですので色収差があり、土星を見ても友人の望遠鏡のようには見えないワケです。小遣いの少ない私はH-100のミラーだけ買って自作に走るのです。やがて光学業界で働くようになります。

(2) 顧問の先生のタカハシP型でM57を見た

高校に入学し、担任で自然科学部の顧問をやって頂く先生が東京理科大学の天文部OBでした。先生は当時人気が出たP型を持っていて高校の屋上で色々な天体を観察しました。感心したのはM57を見て、色収差は無いし、小さいけれど白くてぽっかりと穴が開いている星雲が本当に良くわかったことです。屈折式でも色収差が無いことに驚いたのです。

(3) ニコンのED10cmで恒星を見た

大学の卒論は望遠鏡の性能調査、というテーマでした。発売になったばかりのニコンED10cm屈折望遠鏡を研究室で購入しました。これでまず恒星を見たのですが、回折リングが教科書に記載されているようにはっきり分かりました。これは出来が違うんだ、と思ったのです。

お知らせ：株式会社ニコンのニコンミュージアムはカメラ・各種光学機器の展示をしています。URLは、<https://www.nikon.co.jp/corporate/museum/>

現在企画展示として「星の美しさを伝えた天体望遠鏡たち」を行っています。



期間は2021年7月21日迄です。

場所は品川駅から徒歩10分、品川インターシティー内です。入館は無料です。

新型コロナウイルス感染症により移動がはばかれる状況ですが、事態が改善しましたらご見学いただけますよう、ご案内申し上げます。

※M57って目では白く見えるけれど写真に撮ると色づいていますね。セレストロンC11で撮影、トリミングあり。デジカメは中心星が簡単に写るので驚きます。

日月星の伝承を訪ねて (67)

横山好廣

静岡市清水区由比での調査報告をしたい。

青春18切符を活用して静岡方面の調査しているときに、桜エビで有名な由比漁港に立ち寄った。そこで若い漁師に教えて貰った望月忠吉氏に聞いた話を中心に報告したい。平成23年の調査時、望月忠吉氏(以後望月翁)は94歳で達者そのものであった。なお、望月翁の祖父・望月平七氏は明治27年に桜エビ漁改良のきっかけを掴み、桜エビ漁盛況の端緒を作った先人として著名である。

●調査年月日 平成23年(2011)4月2日

平成24年(2012)4月6日・10日、9月10日

●調査地 静岡県静岡市清水区由比今宿

◎平成23年(2011)4月2日

港で望月翁を教えてくれた若者がバイクで追いかけてきて、翁の家を案内してくれた。この辺りは望月姓が多いので、望月翁宅を捜すときに間誤付かないようにとの親切心からの行動で嬉しかった。

望月翁宅を訪ねると、翁は外出中というのでお孫さんとお孫さんの母親が小生の聞き取りに応じてくれた。翁は94歳になるが、元気に自転車で出かけているようだ。

いよいよ、星の話を切り出すと、その種の話はあまり耳にしたことがなさそうであったので、話題を月見に切り替えた。

月見

- ・片月見を嫌う。例えば、十五夜が秋のお彼岸と重なったときは十五夜のお月見はしないので、その年は十三夜の月見もしないことになる。

- ・お月見にはススキ、葉付き生姜、サツマイモ、栗、果物などを供える。上新粉を練り、蒸かしてヘソ餅を作って、十五夜には15個、十三夜には13個、お月さんに供える。

ヘソ餅をはミツ団子にして食べる。

- *葉付き生姜とヘソ餅を供えるところが面白い。

ヘソ餅をお月見に供えるはこの辺りの習俗である。お月見の近くになると菓子店にはヘソ餅が並べられる。ヘソの形に見えるところからついた名称であろうか。

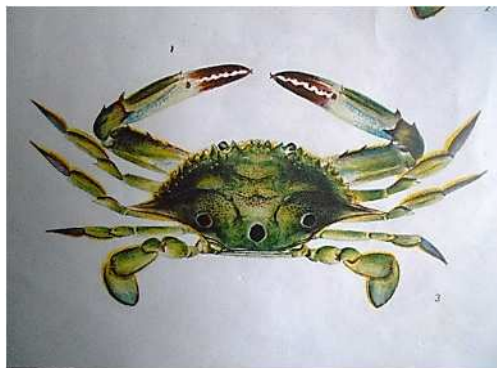
望月家を辞し、近くにいた若者たちにワタリガニ(ジャノメガザミ)の名を尋ねた。言葉では通じないようだったので写真を見せると、「ミツボシ」「ジョウトウヘイ」と応えてくれた。今では見かけなくなったそうで、味も良く、旨かったと懐かしがる風であった。

このカニの甲羅には三つの紋が並んでいるので、「ミツボシ」と呼ばれ、昔の軍隊では上等兵の徽章は三ツ星であったので「ジョウトウヘイ（上等兵）」とも呼ばれたのであろう。

ついでに、ウツボの呼称を尋ねると、仲間と携帯でやり取りして「ジャンコー」と回答してくれたが、その意味はよくわからない。また、ウツボを食べる人もいるが、大概是捨てるようである。沖で獲れるウツボは大きいので開いて干物にしても食するらしいが、紀州の食習慣と重なる。

方角の呼称については、東は「ウラ」、南は「ミナミ」、南西は「ナカシ」、西は「ニヤ」という回答であった。沖の呼称に興味があるので尋ねたが、「ダイナン」とか「デーナン」という呼び方はないようである。

今日は強風のため桜エビ漁に出られず若者たちは時間を持て余し気味であったことが幸いし、色々と尋ねることが出来た。丁寧に応えてくれたことに感謝。



「ジャノメガザミ」

（出典・『原色動物大図鑑』北隆館）

◎平成 24 年(2012)4 月 6 日・10 日、9 月 10 日

一年ぶりに由比を再び訪れた。今回は望月翁夫妻から話を聞くことが出来た。翁だけの話には（翁）と表記した。90 歳代の夫妻からの聞き取りは珍しい。この年は 3 回訪ねたので、その 3 回分をまとめて記述する。

星の名

- ・オテントウサマ-----太陽
- ・ノノサマ-----月
- ・アケノミョウジョウ・ヨイノミョウジョウ-----金星。
- ・ヒトツボシ-----金星。夜明け前に伊豆の山から出て、夜明けを知らせてくれる明るい星（翁）。
- ・ミツボシサン-----オリオン座三星。冬にきれいに見える。三つきれいに並んでいる。
- ・ジョウトウヘイ-----オリオン座三星。星が三つだから上等兵という（翁）。
- ・ナナツボシ-----北斗七星

（つづく）

天 象

相原 榮

4月

水星：明け方の東天低空、観望困難 $-0.5 \sim -1.2$ 等 みずがめ→おひつじ座
金星：夕方の西天低空、観望困難 -3.9 等 うお→おひつじ座
火星：夜半前に沈む $+1.3 \sim +1.5$ 等 おうし→ふたご座
木星：夜半過ぎに昇る、明け方の南東天 $-2.1 \sim -2.2$ 等 やぎ→みずがめ座
土星：夜半過ぎに昇る $+0.6$ 等 やぎ座

4日 19h02m 半月(下弦)
22h35m 清明
12日 11h31m 新月
17日 夕空で月と火星が接近

20日 05h33m 穀雨
15h59m 半月(上弦)
22日 22h 4月こと座流星群が極大の頃
26日 夕空で月と水星が接近
27日 12h32m 満月

5月

水星：夕方の西北西天で高度を上げる、観望好期 $-1.2 \sim +2.6$ 等 おうし座
金星：夕方の西天で高度を上げる -3.9 等 おうし座
火星：夜半前に沈む $+1.5 \sim +1.7$ 等 ふたご座
木星：夜半に昇り、明け方南中 $-2.3 \sim -2.4$ 等 みずがめ座
土星：夜半頃の南東天に昇る $+0.5$ 等 やぎ座

4日 04h50m 半月(下弦)
5日 15h47m 立夏
6日 11h みずがめ座 η 流星群が極大の頃(悪条件)
12日 04h00m 新月
13日 宵に月と水星・金星が集合

14日 夕空に火星・月・水星・金星が並ぶ
20日 04h13m 半月(上弦)
21日 04h37m 小満
26日 20h14m 満月(皆既月食)
29日 夕方の西天で水星・金星が大接近

6月

水星：夕方の西北西天で高度下げ、後半は明けの東北東天 $+2.6 \sim +1.1$ 等 おうし座
金星：夕方の南西天で輝く、宵の明星 -3.9 等 ふたご座
火星：宵の西天 $+1.7 \sim +1.8$ 等 ふたご→かに座
木星：夜半前に昇り、明け方南中 $-2.4 \sim -2.7$ 等 みずがめ座
土星：夜半前に昇る $+0.4$ 等 やぎ座

2日 16h24m 半月(下弦)
5日 19h52m 芒種
10日 19h53m 新月(北米・北大西洋で金環日食)
12日 日没後に月と金星が接近

18日 12h54m 半月(上弦)
21日 12h32m 夏至
25日 03h40m 満月
27日 19h 6月うしかい座流星群が極大の頃